



月刊美術

2021年12月号 ネクストブレイク特集にて

『江副拓郎』を

ご紹介いただきました

遅れてきたネクストブレイク **1**
PART.

硬質な鉛筆で
女性の柔らかい質感を再現

江副拓郎

EZOE TAKURO

鉛筆画という点、繊細な技術を競うように線と点の集積で描く細密画や、本の挿絵のような白と黒の陰影を生かした画風が一般的。ところが江副が描くのはそのどちらでもなく黒からグレーをして白へといたる濃淡のグラデーションを活かした、風景の中の女性像。

トフォリオ持参で訪れたのが銀座かわらそ画廊だった。オーナーの囁きでほどなく開かれたグループ展に出品されると顧客がこぞって購入を申し出て、追加出品を繰り返して会期中13点が売約となった。以来、個展、百貨店催事、アートフェアとステップアップを続ける。



1983年京都生まれ。専門学校でデッサンを学ぶ。2014年第24回全日本アートサロン絵画大賞展入選。17年第35回上野の森美術館大賞展入選。

展示予定 12月4日～9日・かわらそ画廊（新富町）「冬の初めの幻想展」に出品 / 2022年6月・GINZA SIX Artgalerieux（銀座）「コンボステラ 聖なる物語」に出品

00《京小町IV》 66,000円（額付）

4F 鉛筆

女性の生きる力、たおやかな生命美をテーマに、色や肌の質感を感じていただけるモノトーンを目指しています。《Breath》は湿度のある肌の感じ、《京小町》は産寧坂にたたずむ女性の内面を想像いただけると嬉しいです。



00《Breath》 165,000円（額付）

10F 鉛筆

